

第5回安曇野市新市立博物館構想策定委員会 会議概要

1	会議名	第5回安曇野市新市立博物館構想策定委員会
2	日 時	平成27年4月23日(木) 午後1時30分から午後3時30分まで
3	会 場	安曇野市明科複合施設 会議室3
4	出席者	笹本委員長、石田副委員長、福島委員、小林委員、平田委員、浅見委員、滝沢委員、浅川委員、酒井委員、大月委員、西垣委員
5	市側出席者	橋渡教育長、北條教育部長、那須野文化課長、西山博物館係長、小倉文化係員、逸見博物館係主査、亀山(乃村工藝社)、横山(乃村工藝社)、大橋(乃村工藝社)、中瀬(乃村工藝社)
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	2人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成27年4月30日

会 議 事 項 等

1 会議の概要

1. 開会 (北條部長)
2. 笹本委員長あいさつ
3. 協議事項
 - (1) 第3回・4回 会議録意見のまとめについて
 - (2) 博物館・美術館の利用継続性の評価結果について
 - (3) 新市立博物館とその他施設の整備方針について
 - (4) 新市立博物館構想・検討シート
 - (5) 市民アンケート調査(案)について
 - (6) その他
4. その他
5. 閉会

2 会議概要

1. 開会

北條部長・・・ただいまから第5回安曇野市新市立博物館構想策定委員会を始めます。本日は年度当初、大変お忙しいところをお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。今年度の会議は今回が初めてだが、昨年度から慎重にご審議をいただき、心より感謝を申し上げます。

この策定委員会の提言は、今回も含めましてあと3回程度の委員会により、一定の方向性を示していただければと考えている。本日の会議は各館の利用継続の評価結果を参考に、施設の整備方針についてご検討いただきたい。よろしく申し上げます。

なお、委員会にかかわる設置要綱第6条第2項の規定により、11人出席ということで、半数以上の委員が出席をしているので、委員会として成立していることを報告申し上げます。なお、教育長と私は、きょう3時からほかの会議、公聴会が入っており、途中で退席させていただきたい。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは笹本委員長のほうからごあいさつをお願いいたします。

2. 委員長あいさつ

委員長・皆さん、こんにちは。急に天気になって、来る途中、北アルプスを見るとものすごくきれいで、雪形がそろそろいい時期になった。同時に山桜がいい。安曇野の山桜は、僕は最高だと思っている。そういう景色の日に、こうやって会議をするのはいささか大変だが、ぜひ皆さん、ご協力をお願いしたい。

昨日、私、消防庁関係で意見発表会を聞きに行ったが、その途中で長野市立博物館に寄った。

長野市立博物館では、今の御開帳に合わせてすぐに特別展を行う。それから今は信濃美術館でも特別展を行っており、いろいろな場所で行っている催しごとにかけているんなかたちの展示をしている。私たちのところは、まだ残念ながらそこに至るような装置を持っていない。新しい博物館をどうするかたちでやっていくかということはそのまま、私たちの気が付かなかつたいるんな知識をもらえるか、もらえないかというところにつながってくるのではないかと思っている。いつも、皆さまからいろいろなお知恵を借りて、新しい博物館はどうあるべきかということでもって前に進んでいるつもりである。きょうもぜひよろしくお願ひいたします。

北條部長・ありがとうございます。それでは委員長のほうから議事の進行をよろしくお願ひします。

委員長・それでは皆さん、よろしくお願ひいたします。協議事項に入る前に、この会議は公開で行われている。また、会議録を作成する関係もあり、発言の前には名前を名乗っていただきたい。

3. 協議事項

(1) 第3・4回 会議録意見のまとめについて

委員長・早速、協議事項に入っていきたい。最初に(1)として、第3回・4回の会議録意見のまとめについて、事務局のほうからご説明をお願ひいたします。

(事務局より会議録意見資料の説明)

委員長・ただいま説明があったが、各委員の皆さまから、何かご質問、ご意見等がありましたらお願ひします。基本的には、第4回会議録等をお読みいただいた上でまとめたつもりなので、これで了承いただき、早速きょうの本題に入っていきたい。

(2) 博物館・美術館の利用継続性の評価結果について

委員長・前回アンケートとして、博物館、美術館の利用継続について、皆さまのご意見を頂戴した。その結果について、事務局のほうからご説明をお願ひします。

(事務局より評価結果資料の説明)

委員長・どうもありがとうございました。ただいまのような結果が出て、非常に皆さんにまじめに考えていただき、評価していただいたと感謝している。その上で、もしこの結果についてご質問、ご意見等あれば、よろしくお願ひいたします。

全体としては、実にさまざまな意見はあるかと思うが、私が見るところ妥当な、恐らく皆さん、そんなに大きな意見の変化はなく、落ち着くところに落ち着いている。ただ、協議しなければいけない点は幾つかあるように思うが、それは私たちが理想とするケース1の場合の、新しい博物館をつくる場合と、それからケース2の既存のものを利用する場合、さらにはこのままでという方向性の中でまた考えていかなきゃいけない点があるように思う。

もし特別な意見がなければ、新市立博物館について協議を進めていきたいと思う。

(3) 新市立博物館とその他施設の整備方針について

委員長・それでは、新市立博物館とその他施設の整備方針について、事務局のほうから説明をお願ひいたします。

(事務局より整備方針資料の説明)

委員長・どうもありがとうございました。既に本委員会でも、全体として理想形はケース1である。ですから私たちのほうでケース1を理想形としますということはきちんと主張しなければいけないと

思う。その場合について、資料3の1ページ目のところにあるように、基本的に、博物館の中心的部分は新しくできる新市の博物館、それから美術館は豊科近代美術館を安曇野市美術館というかたちにして、これが基幹になる。それから収蔵施設に関しては、基幹博物館のうちに新たなものをきちんとつくって、文書等に関しては安曇野市文書館等というかたちになる。これが、全体として私たちが一番求めているものになる。

皆さんから、まずケース1についてご意見をいただいて、私どもとしては一応ケース1で行くということでもいいかどうか、その上でケース2を検討したい。ケース3については既に話が終わっている。こういう方向で行きたいと思う。繰り返すが、理想形としての新市立博物館をどうするかということは将来のことに関わってくる。それから同時に夢のようなことも含めて、理想形は理想形というかたちで主張したいと思っているので、もし皆さまからご意見等ございましたら、よろしくお願ひいたします。

委員・ケース2については、まだこの委員会でしっかりと検討、確認はしていないわけだが。

委員長・今日、もしできたら、私の意図としてはケース1についてはこれで行きますというかたちで決めてしまう。その次に、ケース2に入っていくという順序で行きたいと思っている。

委員・私は、むしろその逆のほうがいいと思う。もう一回ケース2も、同じ土俵の上で検討して、それで、じゃ、最終的にケース1がよかろうとなったら、ケース1に行ったほうがいいのかというふうに考える。

委員長・すみません、ちょっと事務局のほうから。

那須野課長・この前の会議でもちょっと話したように、安曇野市の公共施設再配置計画というのが今議論されていて、基本方針は2月に示されている。実は、その中で、まだちょっと公表できない部分もあるが、ざっくりと言うと、義務的なものは残す。準義務的なものは統廃合を検討していく。義務的というのはどうしてもなければならぬもの、学校とか、保育園とか、こういうものというのはなくてはならないから残す。その中に博物館は入っている。

それから美術館は、ほとんどが準義務的になっている。これは、非市場的な準義務的なものの中に美術館はほとんどが入っている。この準義務的なものは、統廃合を検討していくという基本的な考えに立っている。なぜそういうふうになったかということころは、私はこの委員会に出いていないので推し量るしかないが、博物館というのは安曇野市の歴史とか文化をきちんと行政の義務として研究したり、展示したり、または資料を集めていかなきゃいけない。これは行政の義務である、そういう視点に立っているからだと思われる。それに比べて美術館というのは、ある程度嗜好性があるものなので、興味のある方が見に行けばいいという漠然とした考えの中で、そういう位置付けになっていると思われる。

これを素直に取ると、博物館は資料館も含めて全部残す。美術館はあれだけ立派な近代美術館があっても統廃合を検討していかなきゃいけないという、今たたき台ではそんなふうになっていて、近いうちにここの結果を踏まえて、整合性を図らなきゃいけないと思う。実はそれに対応するのがケース2になってくると思う。

一応、ケース1というのはある程度統廃合が見込まれる。例えば、この施設を廃止するかわりに、新市の博物館の中にそういうコーナーを設けるといふふうにするれば、決して今やっているサービスが落ちることにはならないので比較的議論しやすい、考えやすいと思う。

ですから、入館者が少ない施設は役割を終えつつあるというような解釈もあるという話も前にあった。例えば年間入場者が500人、1000人行かない施設というのが二つ、2000人以下の施設もあって、三つぐらいが統合の対象になっているが、恐らくその要素を新市の新しい博物館の中に持っていけば、例えば寄贈していただいた方に対しても、またそれを後押しして設立に向けた人たちの思いというのも、その中に入っていますと言えるという段階で、議論しやすいし決定しやすい。

ケース2というのは、再開発計画の内容も含んで議論しなければならないので、ちょっと後回しにしながら、意見は十分にくみ取らせていただいた上で、調整をはからせていただきたい。したがって、おのずとここでこういうふうなケース2とさせていただいても、調整によって変わらざ

るを得ないという状況も出てくるので、順番をそんなかたちにさせていただければありがたいなというふうに考えた。

委員長・私としても、やはり博物館とか美術館とか、こういうものってある意味ではきちんと夢を語って、それを前面に押し出した上で次の段階、もしそこに至らない場合にはこうすべきだという提言をしていくのが一番いいと思っている。

ケース1というのは、先ほどから何度も触れているとおり、私たちにとって理想形はこうあるべきだ、それは変わらないと思う。その中で、まずは論議を決めて、その次の段階、ケース2の場合は今事務局から説明があったように、市の動き、市がどこを統廃合していくかというものと私たちがどうつながっていくかということもあると思っている。今私たちが、これは必要だというケース1をしっかりと決めておけば、逆にこれがなかったら困りますよということは主張できる。私の思いとしては、ケース1をしっかりと論議して、本委員会としてはケース1を望んでいるが、無理だったらこの要素のうちどの部分だけは残してもらったり、どこに統合してもらったりということを考えていくのがケース2の状況ではないかと思っている。それぞれの市によって財政的な状況だとか、人力的な状況でいろいろ大概である。私たちはそのことを斟酌して論ずる前の段階として、理想形として新市博物館をつくる場合というので決めてしまいたいと思って今日があるわけである。

ですから、きょう、できたら、例えば今のケース1のようなかたちで行きますよということの本委員会としては決めた。これをもって何かあるときには私たちが主張していく。ただし、市の財政その他の関係もある。それから極端な言い方をすると、先ほどの事務局側の説明によれば、統廃合するといっているわけですから、ケース3はないということになる。おのずからケース3は、最初から考えられないことを市のほうが決定してしまっているわけである。ですから、私たちとしては、逆に、しっかりケース1で考えてケース2へというふうの下ろしていきたいということで論議を進めていきたいと思っている。よろしいでしょうか。

委員・私がちょっと引っかかったのは、統廃合はそのとおりでいいと思う。ハードの部分で、結局ケース1の場合は建物を新しくつくって、それでその中で統廃合をする。ケース2の場合は、具体的にいうと、例えば今の豊科郷土博物館をもう少しいいかたちで直せないか、できるだけコストを抑えるようなかたちで。それでうまくいかないのかなという、そういう素朴な疑問があったので。一番言いたかったのは、お金の問題が引っかかったということである。

委員長・すみません、委員長というよりも個人的な意見として言わせていただくと、豊科郷土博物館、あのままでは市を代表する博物館になり得ない。したがって増築は当然必要になるはずである。ケース1の理想形でできないなら、ケース2でやるなら、増築を要求しますということを本委員会として、要求すべきだと思っている。

ちなみに、あの建物を増築するとしたら、耐震が必要である。耐震で相当お金が掛かる。耐震をした場合であっても、築年数で考えると、あと30年くらいだと思っている。ですから、そういう意味でいうと、今後長い目で見たときにケース1をしっかりと論議した上でケース2をやって、仮の話だが、ケース2がつなぎになって新博物館が将来的にできるというようなところまで行かざるを得ないだろうと思っている。

そういう意味で、今、委員からお話があったように、ケース2の場合であってもそのままの建物を利用するということが前提だったら、私たちのこの委員会はなくてもいいのではないかと思っている。私たちの委員会としては、市が良くなるために、未来の安曇野市が良くなるためには、どういう施設が必要であるかということ論議して、財政的な部分が駄目だったら、でもそれはいつの日か、解決したときにはこうなるべきだということを引きと主張すべきだと思っているので、順序として、今日はできたらケース1を皆さんの合意のもとに確定してしまいたいというのが、私の気持ちである。よろしいでしょうか。

那須野課長・補足をしたい。今回お配りしたケース2、既存施設を増改築するという案の統廃合案は、あくまでも皆さまからいただいたアンケート結果をもとに決めている。内容を特に考えたわけではなく、

その結果に基づいて、当てはめただけであって、この議論というのは十分尽くさなければいけない。これが独り歩きすると、その結果はどうして決めたのか、アンケートの結果です、というわけにはいかない。それぞれの施設の実情というのを少し加味しながら時間を掛けて検討しなければならない、そういう思いがある。

それからケース2のポイント1のところ、豊科郷土博物館を増改築するとある。それからポイント2のところにはスペースの不足、新しいものを建てない以上、要は収蔵スペースがないというのはもう皆さん承知のことなので、既存施設の増築または施設転用をして、なんとか調査・研究、収蔵スペースの確保というのが前提にならなければケース2というのは無理ではないかと思っている。そういうことをここで言っている。したがって、ケース2は、こういう前提条件などいろいろな要素を含んで議論したいので、その辺りも含めて後回しにしたいということである。

委員長・よろしいでしょうか。今のようなことがあり、先ほどからケース2の場合であっても、個人的には人が少ない、たくさん来ている、来ていないではなくて、要素として必要なものはやはり必要である。それはきちんと論議して、現状がこうだからじゃなくて、理想形としてどうあるべきか、ということがケース1で考えられていると、後がすごく楽になる。ケース1については今までの話のとおり、基本的には新しい博物館をつくりましょうと。ただし、その場合であっても、現状のものを廃棄する必要はないので、統廃合で使えるものは使っていきましょうというのがケース1の場合である。

実はこのケース1の場合であっても、最終的には市の財政規模によって面積も違って来るだろうし、場合によると建物以上に大事なのが学芸員だというのは皆さんの一致した意見である。それはそれとしてやはりきちんと主張していかなくちゃいけないだろうと。ややもすると、建物論議がいつてしまうと建物で終わってしまう。いいものをつくらぬまま、一回つくってしまうとそれで全部発展が止まるようなことでは困ると私は思っている。

いずれにしても、ここに書いてあるとおり、今までの本委員会ではの収集・保存というのがすごく大事である。これは、市民の皆さんがあまり気付かないところだが、これはすごく大事ですよ、新しい博物館、収蔵館が大事なのですと。そして調査・研究。収蔵したものを調査・研究した上で発信・連携をしていかないと駄目なんです。そして、その結果として子どもたちを中心として育成・創造へというステップを踏んでいかなければいけない。まずは収集、保存、調査、そういう基地として新しい博物館が欲しいですねというのが、まずは最低条件だと私は思っている。皆さんのほうから、ご意見をぜひ頂戴したい。よろしく願います。

委員・教えていただきたいことがある。まず、現在の豊科の郷土博物館を、耐震工事をやって増築をしてという話だが、具体的には今の建物のどのくらいの容積が必要になるのか。郷土博物館を中心に統廃合を考えた場合だが。

委員長：それはまだ一度も論議されていないと、私は思っている。つまりどの程度やるか。先ほどのとおり、新博物館を建てる場合であっても、金額とどこに重点を置くか、それをきちんと論議しないと何もいえない部分があると思う。例えば豊科の場合でいうと、後ろにある駐車場を使うしかないの、おのずから面積が決定されてくるだろう。面積が決定されてくるということは、展示でどこに中心を置くかも決めなければならない。ですから、個別具体的な状況は次の段階ではないか。そういう方向が決まった段階でないと私はまだ論議できないと思っている。私どもが、増改築で、あそこ後ろのところは狭いけれども、あれを4階建て、5階建てにすれば大きなものができるんじゃないかという案もあるかもしれないが、それはいろいろな状況からして無理だろうと。したがって、今の段階では、本当に繰り返しで申し訳ありません。私としては理想形をきちんとと言って、理想形に近づけた上で私たちは、駄目だったらどこまで妥協を……、委員会としてはどこまで妥協する、あるいは30年後、40年後にこうあってほしいということを中心に議論して、それをつないでいく、それが一番大事だと思っている。ちょっとお答えになっていないかもしれないが。

那須野課長・今の問いは非常に大事なことだと思う。次回ぜひ、その議論に入っていっていただきたいと思

う。委員長がおっしゃったように、まだ豊科郷土博物館を基幹博物館とするというのは、案としてケース2で書いただけで、いやいや、私は違うよという意見も当然あっていいと思う。どこかもっと広い施設が空けば、そういうところの利活用というのも出てくるかもしれないが。ただ、現実的な案として考える上においては、私どもとすれば今のところそれしか考えられないというような状況の中で、そこに当てはめさせていただいた、本当に当てはめさせていただいたことである。ケース2については、ケース1の議論が終わった後にお時間を取らせていただく。そこで理想とするところ、ケース2についておっしゃりたいところは取りあえず全部出していただいて、次回はそれを整理して、ケース2の議論につなげたいと思っているので、ご了解いただきたい。

委員長・ということで、ケース1の場合だが、ぜひ取りまとめをしておきたい。ご意見等ございましたら。皆さまのご意見、それから博物館のあるべき姿というのは、一応全部取り入れてやっているつもりである。問題になってくる、どのくらいの面積とかそういうことは、ここでは一切まだ触れてはいないし、触れられる状況ではないと思っている。したがって今のような流れの中では、本委員会として理想形をきちんと追い求めて、新市立博物館を建設してほしいというかたちで出す。委員会としては、とりわけ今までやってきたのは、博物館はどういう機能が必要であるかということをきちんと分けた上で、今のような役割として四つの部分を確認した。

この四つの役割を少しでも実現するためには、新博物館がいい。そして、できるだけきちんとした学芸員を、学芸員こそが次の時代をつくってくれる人だということを私たちは確信して、その方向に持っていくというかたち、これが理想形であるケース1、本来私たちがやらなきゃいけないことだと思う。大まかなところはこれでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。反対の方がいいようでしたら、あくまでも基本的に本委員会としては、いろいろな博物館のあるべき姿をきちんと具現化するためには新市立博物館を新規につくっていただきたい。それに際しては、先ほど確認したが、収集のところはまずしっかりやる。収蔵庫がなかったら私たちの大事な文化が次々に消えていく。外側から見ると今までの博物館機能は、どちらかという展示ばかりを気にしているけれども、私たちとしては収蔵の部分もしっかりやってほしい。その上でもって調査・研究をして、調査・研究ということになれば、当然のことだけれども人も必要になるし、その人たちを使っているいろいろな、新たな市民研究員制度なんかもできるだろうということで、これをぜひお願いしたい。

そして発信機能は今まで、私たちがずっと言ってきた部分だが、とりわけ発信機能に関しては展示が重要。展示は皆さん、今までの人たちも多くイメージできると思うが、その中でも情報発信は単に展示だけでなく、今はいろんな機能を用いた、インターネットその他も使ってやりましょう。それから異分野の連携、よその状況を見ていると、活動している博物館、美術館というのは単に作品を見せるだけではなくてレストランとか、人々の集まる空間になっている、できたらそんなふうにしていきたい。

それから利用者サービスとしては調べ物ができる。調べ物ができるというのは、今までの図書館とどう違うのかということも含めて、新たな調べ物ができるような場所にしたい。それから先ほどの広報活動としては、今まであまり意識していなかったけれども、どうも少しでも皆さんに親しんでいただくためのロゴだとか、SNSを利用して、今まで以上に身近なものに、そしてこれを使いさえすれば世界ともつながれるという方向に持っていきたい。また、新築なら、当たり前だけれどもバリアフリーをやってもらわないと困る。

それから本委員会の特徴だったのは、K委員も来てくれたこともあり、育成、市民教育、子どもの教育についてとりわけ重視したい。設立段階から少しでも多くの市民の人に入っていただいて、いろいろやっていきましょう。それから生涯学習の場として当然使っていきます。さらには子育て支援、学校の、学生さんたちと連動しているようなことができるように。それは今までのようなかたちで来ていただくだけじゃなくて、もっと積極的に学芸員さんに学校に行ってもらったりするようなことを含めてということである。

それから最後に、祭りや風習など地域文化の掘り起こし、伝承、今まで私たちが持っているもので気が付かなかったものをもう一回博物館を通して気付きをさせてもらって、大事なものについてどうやって保存していくか。

こういう機能をしっかり持った博物館を私たちは意志として、理想形とする。市のほうも最初に私たちに論議を求めていたときの回答としては、これを理想形にするとかたちで持つので、全員一致でということで、よろしくお願ひいたします。

那須野課長・今、ケース1における方向をご了解いただいた。先生のお話にあった安曇野市にはどのくらいの規模の博物館が必要なのかとか、今、先進地には博物館があるんだろうとか、要は、ソフトというか、展示、新しい博物館における活動など、夢の描ける部分については、全国の状況を資料にまとめて、事前にお送りして安曇野市の人口規模だと大体このくらいになるんだろうとか、最先端の展示の見せ方とか、博物館活動というのはこういう事例があるとか、そのあたりをお示しして、次回ケース1の具体的な内容について議論していただく機会をつくりたいと思うので、ご理解をいただければと思う。

委員長・ありがとうございます。既に私たちは乃村工藝社から見せていただいたが、私たちの思っているものと現在の博物館はずいぶん勝手が違ってきている。これは実は、市がどういうふうにしたいかで違ってくると思う。例えば、私がよく言うとおり、塩尻市の図書館は人口30万人規模の図書館をつくり、市の中核施設になってものすごく人が集まっている。特に学生さんたちも集まるようになってきている。ですから、市の側としてはどのような位置づけをするかということによる。例えば、われわれと同レベルの人口規模だったらこのレベルですというだけではないことだって、考えてもらわないといけないかもしれない。逆に、うちの市としては、ここに重点を置くから博物館の部分は少し小さくとかということもある。そのあたりを含めて次回お示しいただけるということなので、まずは私どもとしてはケース1については今のようなかたちで進ませていただきたいということで、お願ひいたします。

(4) 新市立博物館構想・検討シート

委員長・新市立博物館構想の検討シートについて事務局のほうから説明をお願ひいたします。

(事務局より検討シート資料の説明)

委員長・どうもありがとうございました。皆さんから、検討シートを見てお気づきの点等ありましたらお願ひいたします。

委員・既存施設に関して、現在の目標、テーマというところに、その館の目標、テーマが書かれているが、これは何によっているのか。

那須野課長・現在の目標、テーマについては、市の文化振興計画の中に、それぞれの館の役割がうたわれており、それを中心にそこに抜き出している。

委員：条例とではなく、設立の、ということか。

那須野課長・設置条例のある施設については、その中に書かれている趣旨は当然入っているが、ないものもある。

委員・申し上げたかったのは、ケース1について話を戻さなくちゃいけないが、今後の位置付け、目標、テーマというところの、「安曇野市の基幹博物館として総合的に各分野を扱う」と書いてあるのは、これは暫定的な言葉だと思うが結局、これをしっかり決めないといけないということだと思う。百文字程度で決めると、目標等になると思うが。あるいは、最近こういう博物館についてはどこの館でも使命を決めて、具体的に目標を設定して、そしてそれに対して評価を加えるという循環を組み立てようどこの館でもやっていると思う。当然のことながら、新市立博物館については理想に掲げる内容の実現を目指して高い目標掲げる。この場合は百文字で細かいことは書けないが、百文字の中に全てのことがたぶん詰まると思う。

だから、最終的にはこの委員会で、確定ではないが、要素はしっかり百文字の中を決めていただく。たぶんその後のいろいろな行政的手続きをやっていく上では大きな根拠になるというふうに思う。

委員長・ありがとうございました。大変重要なことだと思うので、事務局のほうから。

那須野課長・テーマの設定については、ご指摘のとおりだと思う。今、このシートではちょっと弱い部分があるので、今後ケース1の場合については、核となる博物館をどういうテーマで、一言で言えば「こういう博物館で」というのを内外にきちんとアピールできるようなテーマ設定をしていきたいと思っている。

委員長・ただいま、委員のほうから話があったとおり、まずは新市の博物館は何を使命とするのか、それからその結果として目標をどのようにしていくのか、最後に評価をして、その繰り返しをやっている。一度つくればいいというものではないし、また、その目標、使命が達成されているかどうかによって、博物館も次々に良くなっていくということもある。一度事務局のほうと私どものほうで原案をつくるので、それについて少し論議をしたい。

それは、ここではなくて、原案をおつくりして大きな目標であるケース1を第一候補にすることは確定して、それから先ほどの内容を確定した。そのことを推し進めるためにも位置付け、目標についてまだ何も書かれていないという状況ではまずいので、原案をつくって、皆さまのほうにまたお返し、検討していただいて、それを最終的に確定していきたいと思う。

委員・あと、この新市立博物館の収蔵に関して、将来収集していくというものはちょっと横に置いておいて、現状どのぐらいのボリュームで想定できるのか、見通しはついているか。

那須野課長・新市の博物館の中の収蔵庫について、今、資料的には、今日はお出ししていないが、全国の事例、博物館のケースを集めている。次回ご提案できると思うが、どのぐらいの収蔵スペースを持っているかというのは非常に重要な問題だと思っている。これは特に、この内部でこのぐらいにしようということを決めているわけではないが、慢性的な収蔵庫不足が、安曇野市は身に染みている。展示にスペースを割く以上に収蔵環境を充実していくというウエートは非常に高いと感じているので、今後の検討課題とさせていただきたいと思う。

委員長・どうもありがとうございました。今、話にあったように、実は収蔵庫問題は非常に大きい。一方で本市の場合には文化財資料センターというものをうまく立ち上げて、よそから見ると非常にいい状況ではある。ただ、博物館でとなると、センターは博物館でもなんでもないので、そのあたりはまた考えていかなければならない。委員からのご指摘にあったとおり、私どもとしても、そここのところを注意しながら、今後、新博物館をつくる場合には見守ってきたいと思う。

ほかにご意見等は、例えば要素に関しても基本的には、今まで出てきたものの一部にすぎなくて、今後また新たな視点で博物館をつくる時には展示そのものについてはきちんと考えていかなければいけないと思っている。そういう意味では、一つの見方としてこのようなことが今まで論議されてきて、大事な点として挙げられている。それぞれのやり方で、面積や展示費用がどのぐらいいかによっても全く状況は違ってくる。

そういうことはあるが、先ほどから話が出ているように、委員のほうから目標問題であるとか、収蔵庫であるとか、大事な点はここで確認しておきたいと思うので、もしご意見等ございましたら、よろしく願います。

那須野課長・この検討シートは、今テーマ設定が弱いところをご指摘いただいたが、全体ではこういう方向で行くと先ほどご確認いただいた。しかし、個々の施設は、それがどういうふうで反映されて、短期、中期、長期ではどういうふうになっていくのか、一覧で見られる。ちょっと見にくい表だが結構大事で、全ての内容がこの表で固められた段階で、横に切り取ると、ケース1の場合は短期、中期、長期でどういうふうにしていくのか、それぞれの施設ごとに、記述される。

ですから、この表が完璧にできると、個々の内容の説明、テーマ設定から今後どうしていくのかというのが施設ごとに記述されることにつながる。そんな視点で、また今日も含めて次回までにお読みいただき、もうちょっとここはこういうふうにしたほうがいいんじゃないかとか、そんな

意見をいただければありがたいと思っている。

委員・・短期5年以内の、ケース1の、新市立博物館に関して、これは無理もないと思うが、民俗、考古、歴史については、既に郷土博物館のほうである程度展示実績があるので、網羅はしていないにしても具体性に富んでいるが、自然史、観光が、全然具体化されていないと思う。ここをどうやってふくらますかによって、新市立博物館の全体の規模や構想や、どこまで扱うのかということが見え始める。それはこの委員会の中で期間中に行われるのか。

那須野課長・ただいまのご質問で、例えば1ページ目の新市立博物館のところを見ていただくと、下に黒丸がずーっとあり、現在の郷土博物館ではなかなか負えない部分が、そういうふうな点になってしまっている。当然ここは、資料的な収集もそうだが、人によって大きく変わってくる部分で、特に学芸員の配置というのが大きく影響する。安曇野市の博物館の場合は自然系などが特に弱くて、いろいろな問い合わせがあるにも関わらず、きちんと答えられる学芸員がいないという現状もある。

施設部分をどうするかということとともに、どういう活動をしていくかというのがこの割り振りの中にある。その実現のために、実は人の配置というのが非常に重要になってきている。それぞれの施設の中に理想とする学芸員配置は当然盛り込んでいかないと、これを担保する説明にならないので、今ご指摘のところはきちんとその中に書き込んでいきたいと思っている。

それから、これから議論するケース2においても、施設は思うようなかたちではないけれども、そこをカバーする方策として当然人のサポートというのが必要である。そうすれば施設が足りなくてもできることというのが出てくるので、その部分というのはとても大事だと考えて、できればこの委員会の中でご提案してご意見をいただきたいと思っている。

委員長・どうもありがとうございました。基本的に、従来の原資の中でやっていったのは民俗、考古、歴史が中心であって、自然とか観光という視点は弱かった。一方で、新博物館ができたからといって、あれもこれもとやったら薄まるだけで、実はなんの意味もない。そういうものはつくりたくない。今後どこに中心を置くのが重要である。それから具体的に人がいるわけではないので、これをやりましょうということを論議してもどうにもならないところがある。

一方で、今のような話からすると、明らかに欠けているものとして、仮に従来の博物館を利用する場合であっても、自然の部分は非常に弱いというのが見えてくる。そこをどうするかということにならざるを得ない。したがって、今後強い部分としては、強い部分でそのまま、どうしたらより強くなるか。一方で、どうしても自然関係は誰もいないなら、建物も用意できないなら、どうしたらいいのか。それからどうつながっていったらいいのか、考えたいと思う。

今お話があったとおり、ケース1の場合の下のほう、従来なかった部分がここまで、みんなで意識されるようになったというだけでも違ってくるだろうと思う。自然に関しては、安曇野という自然が豊かだというイメージはあるが、博物館の中で産業・観光部門をほとんど取り上げなかった。とりわけ、安曇野の景観をつくっているのは実は農業でありながら、それを展示する状況がなかった。ですから、そういうものを含めていうと、まだまだ私たちが今後考えなきゃいけない点は多いかと思うが、それを短期5年以内にというところに押し込ませる。

それから、一応長期15年以上というところがあるが、博物館がどうやったら成長するかという議論はもっともっとしていかなきゃいけない。実際、30年なり40年なりかかる。そういうようなものを含めて横のほうに、次々に見ていくと、今後、各館がケース1の場合だったらどこに中心を置くかが見えてくる。そのあたりを含めてもし何かご意見がございましたら、お願いいたします。

委員・・ちょっと的が外れるかもしれないが、先ほどから学芸員が重要なポイントになってくるという話をしてきているけれども、実際に私も安曇野文化財団は指定管理を受けている。豊科近代美術館も、資料を見ると基幹美術館という重要なポストになっている。その中で、私は今しばらく人事の関係に携わっているが、例えば現状の学芸員が退職した場合に補充しないといけない。そのときに、補充する要綱で福利厚生面、われわれの指定管理を受けている今の条件の中で、福利厚生面の提

案をすとなかなか厳しい。そういう中で、今、人材、学芸員は重要なポイントになってくるが、その中で人材育成という中で見た場合に、後継者、新しい応募者がその内容で手を挙げてくれるのか。そういうところは指定管理というのは厳しい面がある。限られた金額の中でやっていかなければいけない。福利厚生面単独で、財団で福利厚生面の見直しをするという単純なことができない。これは行政の皆さん方のご理解が必要である。例えば指定管理に対して館がこういうポイント、内容を充実させるには、どうしたらいいかという、板挟みの状態である。そのことを、私どもは今大きく感じているところである。器が立派になれば中身も立派にならないといけない、これが私のモットーなので、やはりそういうところも検討の中に入れていただければと思う。

委員長・ありがとうございます。大変重要なご指摘だと思う。今までの流れからすると、本委員会としては、いい学芸員が欲しいということは、逆に言うと、市できちんとしたかたちにしていかざるを得ないだろうと思うけれども、そのあたりは委員会としてそういうことを願います、あるいは要望するということを確認させてもらうということによろしいでしょうか。

事務局のほうから何かあれば。

那須野課長・これはあくまでも構想であり、学芸員が必要か、必要でないかという視点もある。必要なら、どういう分野の学芸員が必要だということを盛り込むことによって、それが根拠になって、「これは構想の中にあるから当然学芸員を要求できる」というところにつながると考えていただければいいのではないかと思う。例えば貞享義民記念館については、今は学芸員がいないが、議会とか会議の監査員からも置いたほうがいいのでは、と逆に言われたりしている。では、ここに置くとなると、今の事業を少し見直すということも必要である。館自体にどういう役割を持たせるかによって、学芸員を必要として、機能していくかということにつながる。逆に、ここでそういう位置づけをきちんとしてあげれば、例えば今義民のことだけをやっているけれども、人権もやり始めている。それに例えば、ケース2になると、郷土の人物史とかほかの役割を担わせることによって、これらやるにはこういうジャンルとか分野が必要だということ、ここに位置付けていただければ、それを根拠に、そういう方向に義民記念館の運営をしていくということにつながる。そういう視点で見て、ご意見をいただければいいのではないかと。

あまりお金のことを言い出すと、ちょっと厳しいのかなとか、そういう話になってしまうが、構想なので、必要だからここに学芸員を置くというようなご意見でよいと思われる。

委員長・今、お話にあったように、私としては、本委員会の錦の御旗、こうあるべきだということをきちんと訴えて、こうあるということは、将来がこう良くなりますというところに直結してくる説明をすべきだと思う。理想形なので、将来、いずれにしろ、最終的にこうなってほしい。でも、その間に、いろいろな状況があるだろうから、場合によると付属館ではなくてもいいので、こういうふうにしてほしいと。そうすると、先ほどの、今置かれている財団の状況は、よそから見ると大変なことだとよく分かる。今、場所によっては、そういう委託からもう一回直接公営というような話が来ているところもいっぱいある。きちんとした学芸員をぜひ市でもって持つべきだというのが本委員会の意見であると。極端かもしれないが、よその市町村には日本的に有名な学芸員がいるところもある。この人がいるというのが町や村の誇りであるというケースはいっぱいある。そういう意味では、私たちの市は、あの学芸員を持っていると誇れるような体制をつくるべきであって、そのためにもいい条件を用意する。これは私たち、本委員会として、ぜひお願いしたい。そういう意味で、先ほどの委員の流れからすると、ぜひ学芸員としては自然の専門家も欲しい。それから従来とはちょっと違う切り口で、農業を含めての観光的なものを博物館でやる、従来とは全く違う視点の人がいたらぜひ欲しいというようなことは、私たちの理想として訴えていきたいと思う。本委員会として、あるべき姿については言う。今、事務局のほうから話があったとおり、お金の問題ではなくて、あるべき姿はしっかり論議していきたいと思う。

それから今話が出た貞享義民記念館も、市全体の施設となった場合には、貞享義民でいくなら貞享義民が市全体でどういう役割を持っていくかをきちんと説明してもらおう。あるいは貞享義民の主体が人権の問題だとしたら、人権センターとして子どものいじめから始まって人権全体に関わ

るようなものにしていく。それは、私たち全体がある程度構想していかなくちゃいけないことだと思う。そういった意味も含めて、ほかにご意見等ございましたら、お願いいたします。

皆さんのほうでも、私もそうだが、全体の見方がちょっと分からないという点があるかと思うが、全体としては新市立博物館をつくる、そのために今の段階で統廃合の在り方としてこういう方向性もある、その中では足りないものとしてこういうものがある、その一端が確認された。

今日の今までの論議を基にして、もう一度家に帰って、これがちょっと足りないのではないか、これも必要だということがあれば、それを事務局のほうにご連絡いただければ、またそれをさらに豊かにして取り組むので、もしこの段階でまだほかに言っておいたほうがいいということがあれば、よろしくお願いいたします。

委員・気が早いかもしれないが、どういう展示をつくり上げるかという、つまり市民の皆さんにどういう姿を見ていただくかということは常に念頭に置いて、そうすると展示の柱というのは結局、どういう資料を集めなくてはいけないとか、そういうところに直結してくる。そうするとこういう柱を建てるためにはこういう資料が足りないとか、これはちょっと借りてこなくてはいけないとか、あるいはこれは貴重だから、本物は無理だけれども複製を作らなくてはいけないとか、そういう新しい博物館を造るときの具体的課題が見えてくる。そのためには調査研究の上に立った上で、先ほど言った自然や、産業や観光も網羅的に、地学から水まで全部やれというわけではないので、どこに焦点を絞るのか。だけど全体が自然とかかかって回っているので、全体としては触れることになるだろうが、どういう角度から安曇野の自然に切り込むかというところを、やはり今のというか、きょうという意味ではないが、構想段階のときに相当詰めておいたほうが、次のステップに行くときもいいし、理事者に理解してもらうときにも、具体性があるのではないかと思う。

委員長・この点は本委員会と、普通の場合だと建設委員会とか、資料収集委員会とか分科会など、いろいろなかたちがあると思う。本委員会が細かい点まで全部決めてしまうと、逆に私としては皆さんが、全体像が見えなくなる。この委員会で大事なのは大きな流れをきちんとつくってやって、このへんだけは注意してくださいというレベルでいいと思っている。

市のほうは今後、建設する場合にはどんな手続きで行うのか。つまり建設委員会とか、そういうものとの関係をちょっとご説明いただけたらありがたい。

那須野課長・構想が決まり、もし新しい博物館が建てられるという方針になったら、当然、基本計画に入る。博物館の場合は建物を建てれば終わりではなくて、先ほどから出ているように、どのような内容にしていくかという部分が決まらないと設計もできないわけです。今の段階ではこういう組織ができるということは言えないが、何らかの展示とかテーマ性にかかわる専門家を交えた検討会議ができ、当然そこで議論が行われなければ、先に進められないのではないかと認識はある。

委員・私が言ったのは今ではなくて、事務局として準備していただければありがたいという話ある。

委員長・具体的にもう皆さんご承知のとおり、だいが博物館の学芸員さんたちの活動も違ってきて、その違いの中から将来が少しずつ見えてきているところもあると思う。今日の会議の中で出てきたように、足りないところもはっきりしてきている。

それは具体的な博物館構想委員会と、例えばだが、新博物館を造る場合であっても、そうでない場合であっても、具体的に話し合っていかなければいけないだろうと思うので、その点についてはきちんとやるように、私のほうからも伝えておくので、よろしくお願いいたします。

那須野課長・補足だが、安曇野市の場合は、給食センターを活用した文化財資料センターを4、5年前に設置し、ひたすら資料を集めているという状況がある。集めた資料は、当然、博物館にそのまま使えるということを前提としており、来るべき市史編纂にも使えるということで、先行的にやっている。新市立博物館を建てるということになっても、困らないぐらいはいろんな資料を集めていきたいと考えている。

委員長・どうもありがとうございました。今、話が出たとおり、決して博物館は博物館だけの問題ではなくて、市ができてから市の経歴全体を見直す市史もまだ作られてない。ただ、一生懸命にそうい

うための準備は着々と進んでいて、博物館もその流れの中でどういうことができるということはしっかり論議していきたいと思う。

今、話してきたように、基本的には私たちはケース1でいき、それから具体的な状況として、今、皆さまのお手元のところに行っているのは、今までのアンケート等を基にした大きな見取り図にすぎなくて、全体の論議を聞いた上で言うと、もっとこのあたりが必要ではないかというところが恐らくあるかと思う。それについては、事務局にご連絡いただき、よりよいものにしていきたいと思う。一応、私どもとして方向性としてはこういうかたちで進んでいくということでもっていききたいと思う。

委員・新博物館構想のほうを見ていると、貞享義民記念館は付属施設というかたちになっていくというふうに理解をさせていただいたが、10年以内のところには「人権啓発や平和運動の拠点として事業の活動を展開」というふうに書かれている。内容としては大逆事件とか自由民権運動とか、戦争と平和とか、社会経済、政治、哲学、いろいろな安曇野から出ている方がいらっちゃって、その資料というものもたぶん市内に今は現存していると思うが、そういうものを全て貞享義民記念館で収蔵、収集し、10年目の事業活動という展開にもっていけるのであればすごく画期的なものになる。付属施設としては素晴らしいものになるのではないかと思うが、そうなると、この館の名前が一つに固執してしまっているというのはちょっと気になる。今すぐということではないが、付属館として人権のことというのであれば、ちょっと考える価値があるのではないかなと思う。

委員長・ありがとうございます。今お話があったように、新市立博物館ができたときに、実は今までだと貞享義民記念館の「貞享」の部分は、今の私たちにとってはどうであるか、とかいうようなことをあまり考えられないまま名前を充てた。一方で美術館の名前も変えてくるというようなことあるので、そういうことは少しまた論議の中に入ってくるのではないかと思う。

那須野課長・おっしゃるとおりだと思う。それで今回もう一度、ケース1の想定される統廃合の位置付けを見ていただきたいが、これは意外と簡単な表ですけど重い表で、統合するというのももしかすれば無くなってしまふ。穂高郷土資料館とか、臼井吉見文学館だとか、飯沼飛行士記念館、これらは建物そのものがまだ持つものもあるし、もう持たないものもある。

ですから目的がもう達成されつつあるという視点と、もう一つは建物が古くなって使えないということも想定して、この3館ということになってくると思うが、そこで貞享義民記念館というのが平成5年に建てられ、耐震もクリアしていて、施設的には美術館、博物館の中ではまだ新しいものの部類である。

当然、統廃合していくと、残る施設をどういうふうに使っていくかというところは必ず議論していかなければいけない。大きな博物館、いろいろなジャンルを扱う総合博物館ができ、文化財資料センターは、博物館に収まらないような資料はある程度集約していくという見通しはつくと思う。それで貞享義民記念館はどうしようということで、これは使える施設としての活用を考えていかなければいけない。従って義民だけではなくて、そこに何かをプラスアルファし、学芸員を配置するなりして対応していくというようなことが見込まれる。

そのときに何を入れたらいいだろうというところは、ぜひご意見をいただけたらと思うが、その内容によってプラスアルファの名前というのが当然出てきてしかるべきだと。これだけ20年、「貞享義民記念館」と言ってきたので、ずっとそういうふうにいる方も全国にはいらっしゃると思うが、この名前をなくすかどうかは別にして、いろいろな別の意味でこういう展示があり、資料が収集された館でもあるので、併記するなどの工夫は当然していかないと考えている。

委員長・ありがとうございます。今のもあくまでも私どもの案だと思っている。というのは、あの建物が残り、それから今までの貞享義民記念館の役割からしたら、人権問題あたりを扱うのが一番いいのではないかと。今、委員が言われたことは、全体像をきちんと考えるのであれば、名前も変えていかなかったら、市民全体のものになりませんよという、非常に重要な提言だと思う。従いまして、これから新市立博物館を造る場合でも、あるいはケース2の場合であっても、名前に関して

はできるだけ市民全体にとって分かりやすい名前、その点を考えていきたいと思う。
もし問題がなければ、ご意見等はまた事務局のほうにお寄せいただき、市民アンケートの調査の案について、事務局のほうからご説明いただきたい。

(5) 市民アンケート調査(案)について (事務局よりアンケート資料の説明)

- 委員長・どうもありがとうございました。見ていただければ分かるように、こういうアンケートをやりたいと思っている。赤字の問5のところだが、もともと大規模博物館、中規模博物館、小規模博物館と書いてあったが、はっきり言うと、大規模博物館と言われても普通の人は分からないし、お金がかかるのであれば要らないよというのが圧倒的だと思ったので、新規に博物館を建設し、他の既存博物館の一部の機能を集中させるというところに、私たちが気付いていなかったようなものを新たに加えるとすると、ある程度の大きさのものが必要になりますよという意味で、ちょっと言葉を足した。同じように単純な質問ではなくて、アンケート全体が、できたら気付いてほしい、読むことによって安曇野のよさ等が分かっていたいただきたいと思って、意図的に、例えば質問10の部分のような要素を設けて作ってみた。もしご意見等がございましたら、よろしく願います。
- 委員・幾つかありますが、まずアンケートの目的とか、そういったことは、この用紙以外に添付されるのかどうか。
それから2ページ目の問5だが、今こういった委員会が5回行われていが、こういったことは公報とか、あるいはマスコミにかなり積極的に公開しようとしているのかどうか。たぶんほとんどの市民の人は知らないかと思う。私は、申し訳ないが、新聞は信毎しか取っていないから、ほかのマスコミはちょっと分からないが、そこのところについて教えてほしい。
- 那須野課長・最初の目的等の紙が別に付くかということだが、そこは丁寧な説明をした後に書いていただくというようなかたちを取りたい。
それから2番目の、公報で流されているかということだが、実はここの会議録は全て市のホームページで細かく公開はされている。ただ、どれくらいの方が見られているかは分からない。残念ながら公開でやっているにもかかわらず新聞社の取材等はない。もうちょっと関心を持ってもらえるようなことは少し考えていきたいと思う。
- 委員・そうしないと、たぶん枕に説明書が付いたにしても、いきなりのアンケートだと思う。それがいいよりは、やはり積極的にもう少し情報を公開したほうがいいと思う。
- 委員長・基本的にこの前にしっかりした文章を付けないと、アンケートと言われても目的もよく分からない、それから書く側も何を書いたらいいか分からないというところがあると思うので、私どもとしても前の部分の説明については少し注意しながらやっていきたいと思う。
- 那須野課長・先ほどの説明にもあったが、このケース1、2、3をアンケートの中で問うというのはちょっと両刃の剣みたいなのところがあり、大きな博物館を建てるというところに賛同を必ずしも得られるとは限らない、むしろ現状維持でいいじゃないかとか、小さいものでもいいじゃないかというところにチェックが付きやすくなるのと、ケース1の根底が崩れる可能性もある。設問として乗せるかどうかの判断を、今心配しているのだが、そのあたりのご意見を頂戴できたらと。
- 委員長・先ほど言ったように、私としては大規模とか中規模とかではないようにするために、実はアンケートは文章の書き方によって決定してしまう。何の回答が欲しいのであればどういう書き方をすべきか、というので決定してしまうところがあり、そのあたりは注意しておきたいと思う。
それで、今のような三つの案を書く必要があるかないか。ただ、市民の意向を何も問わないというのは、私はおかしな話だと思う。それから博物館を造る目的というのは一体何だろうということも自覚してもらわなければいけないだろうと思った次第である。もう少し文章を無駄なくしてもいいと思うが、従来の博物館のアンケートと違うように、先ほどの気付きとかというようなこと

も意図している。皆さんのほうからこのあたりについてご意見がございましたら、お願いします。

委員・その前に、鏡文で目的を示すということだが、このアンケートを実施する目的と、それから実施後どのように反映するのか、処理するのかというところを聞きたい。

委員長・大変重要な指摘だと思うので、事務局のほうに、もう一度確認させてください。

那須野課長・まず目的については、こういう計画をつくる場合に、市民の意向をくみ取る方法としてアンケートとパブリックコメントが主に行われている。今回の計画もそういうかたちで、市民の意向をくみ取る手段としてアンケートとパブリックコメントをやっていきたいと考えていて、あくまでも意向を知るためというのが目的である。

それからどのように反映させるかということについては、この委員会で少しそのあたりのご意見をいただいてもいいかと思う。ストレートに右か左かと聞いて、右だと思ったら、市民の意向はそっちだからそうしますというわけにはいかない。そういう結果は出たけれども、それを踏まえてこの委員会としてどういうふうに判断しましょうか、というかたちで反映をさせていけるといいかと思う。

委員長・ありがとうございます。今の部分はすごく大事で、ここにお集まりの委員の皆さまには少し広い視野からお話しいただきたいと思っている。社会は一気に同じ方向に行きたがる傾向がある、でも社会の中で重要な部分というのに気がつかなければ、みんなをとどめることもできないというところもあると思っている。

ですから、アンケート結果はアンケート結果として尊重しながらも、一方でそのアンケート結果に、本委員会としてはこういう意見を持っているということもきちんと言っていけるのではないかと考えている。委員会は、こういうものを立ち上げられた以上、市に対して相当強い意見を主張できる、しなければまた意味をなさないのでないかと。

ですからあえて言うと、普通でいったらこの時期に博物館は必要ないですよというのが圧倒的多くの回答になった場合でも、この時期でなくてもいいけれども博物館はどうしても必要だと、それは本委員会としてはみんなそう思っている。今の市民の理解力はこういう状況だけれども、それは今までの博物館が悪かったからとか、いろいろな説明がきちんとならないうような方策には持っていきたいと思っている。

お話にあったように、まずはどこでもやるようなかたちで市のアンケートを行うが、私どもにとっても武器にしていかななくてはいけない。私たちにとってこれをどのように、言葉は悪いけれども、利用し、市民の意をくんでいくかというところもまた本委員会の重要な使命だと思っているので、ぜひご理解いただきたいと思う。

委員・私もこの一員になり、合併して10年になっていろいろなところを見せてもらった。本当に大事なものがばらばらしており、今、本当にみんなで気がついて大切にしていかなければ、取り返しのつかないものもいっぱいあるのではないかと。だから博物館が必要なのだということを市民の人たちにも言っていかなければならない。突然だと本当にお金もかかり、すぐお金の話になるけれども、それ以上に。

それから今までやってきたが、やっと今日、本当に大事だなと自分の中で見えてきた。理想と夢を語ってそれが現実にならなかつたら、ケース1のことを検討していく必要があるだろうかという思いが、今日ここへ来るまで自分の中にあった。でもそうではなくて、それを実現するために理想とか大切なものとか、それを自分たちが気付き、くみ上げていって、そしてそういうものを誰かが真剣になってやっていかないと、大事なものがなござりにされていってしまうのではないかと。時間がかかってもこういうものはきちとしたところできちんと収蔵し、それから将来に、夢につなげていくというか、子どもたちの未来につなげていくということを真剣に考えていかなければいけないなということを改めて、今日、感じました。ありがとうございました。

委員長・ありがとうございます。今のお言葉を、きょうここに博物館の人もいるけれども、すごく嬉しく聞いていると思うし、私も今の言葉でこの委員をやっていてよかったなと、改めて思った次第である。

那須野課長・ご意見ありがとうございました。ケース1というのは確かに理想、夢というところはないわけではないし、現状で厳しいということもわれわれはよく承知している。ただ、新市立博物館の構想を作る以上は、当然、新しい博物館の設置というのを大前提にしていかなければいけないというのは、われわれ博物館に携わる者の一つの思いである。そこはどうかは分からないが、可能性は秘めて、この計画が例えばケース2に落ち着いたとしても、この先の安曇野市の博物館をどうしていくのかということを考えていくときに、ケース1とか3を議論しておくというのは絶対無駄ではないと思うので、そんなところを踏まえてよろしくお願ひしたいと思う。

委員長・委員に言っていたのとおりだと思う。恐らく市民の皆さんは博物館が何であるかということは、あまり行っていない人にとっては特に必要ないとか思えない人もいっぱいいて、ちょっと内輪の話だがショックを受けたのは、このところ豊科郷土博物館はものすごく努力して、利用者数がすごく増えてきた。でも、考えてみると「きぼう」「みらい」の1日、2日分ぐらいしか入っていないかもしれない、ということ言われたことがある。

それでも必要とする人たちはいっぱい増えている。社会は決して多数だけのためにあるのではなくて、必要なものに対して必要な社会をつくっていかなければいけない。弱者に目を向けるということが、今は社会の当たり前の行為になっているけれども、つい近年までそうでもなかった。そういう意味では、博物館を通じて市民が少しでも私たちの市を知り、私たちの市の未来をつくっていくためにこういう論議がされているということで、ここにお集まりの皆さんは、ある意味では次の市をつくっていく代弁者だと私は思っている。

そういう意味からすると、このアンケートを、先ほどのとおり一般的な部分もあるが、私はあえて問5のようなかたちで入れ込んだつもりである。ほかに何かご意見等ありましたら。

委員・このアンケートは、誰が出すかたちになるのか。

那須野課長・当然、市として出していくということである。

委員・この委員会ではなくて。

那須野課長・はい。

委員・委員会としてなら、委員会としては市で新しい博物館の構想を考えているが、それについて皆さんの意見を聞きたい、こうふうに率直に言ってしまうと、委員会の責任なのでいいだろうと思った。それを市の責任でやろうとすると制約がいっぱい出てくると思うので、というただそれだけである。べつに広めてほしいとか、そういう趣旨ではない。

委員長・これはやはり両方の意味があって、われわれがやる場合だとわれわれなりのやり方で、もっとこういう博物館が欲しいということ次々書いてしまうのだが、これは少し客観性を持って、逆に言うとも市のやることであって、私たちはこれを一応確認はするけど、私たちではないという逃げ方もたぶんできるかもしれないので、取りあえずこのようなかたちとしたい。

委員・そうしたら、委員長の手前だが、質問5をこの位置に置かないで、質問15の後ろにもって行って、なおかつ記述式にする。「どのような博物館があったらよろしいでしょうか。ご意見をお書きください」にすれば、要らないというふうに出てくるかもしれないが、無理に三つのうちから選ばせるというよりは、そのほうがよろしいかと思う。

委員長・先に一言。これはまた考えたいと思うが、もしその場合に自由記述だと、実は博物館についての機能が必要になる。ここに書いてあるような気付きの広いものとか、前のほうに具体事例を少し書かないとならない。

委員・それを一番上のところに書いておけばいいかなと。

委員長・それに関してはもう一回、内部で討議させてください。

委員・委員と同様の考えがあるが、一つは、この委員会でアンケートを実施すればいいだろうと私は思っていた。市で実施するのであれば、最後のところに、この委員会で意見をくみ取っていきますというようなことを書いておけば、どうにでもなるだろうなとは思っている。

それで、この質問の順番をやはり変えたほうがいいかなと思っていた。質問の3まで行ったら、質問の10に飛んでいいと思う。次世代を担うために未来を志向させるというふうに。そして1

5まで行き、それで問5に戻って行く。問7、8、9というふうに戻っていくと、まず未来を志向させた上で、新博物館はどのような設備が望ましいかということを考えるような設計ではどうか。

委員・質問1は、「どこに行ったことがありますか」という質問にしてはどうか。行ったところにチェックを入れてもらうように。そうすると集計が大変なのだろうか。今の形式では「え？」と思いながら書くような気がする。上からここ、ここ、ここ。あと、ここは行ってないね、といった感覚が市民にはあるかと思われる。

委員長・今までいただいた意見は、非常にいい意見だと私は思う。並び方次第で実は回答も違って来るし、こちらの意図も全く変わってくる。今まで出た意見をそのまま採用させていただき、ちょっと言葉とか順序を変えさせていただくというかたちにしたいと思う。大変ありがたい 意見だと思うので。事務局もそれでよろしいでしょうか。

那須野課長・はい、結構です。

委員長・何かほかに、このアンケートについてあれば。大変ありがたいことに、こういうものを通じて少しでも皆さんの認識を高めたいということにご理解いただいた上で、なおかつ私どもが本当は流れとしてもっていきたいのは、私個人、皆さん個人の話ではなくて、この委員会がつくられたということは、逆に言うと、新市立博物館は必要だから論議しなさいというのが本来の話である。そこにもっていきけるような流れにするためにも順序を変えたいと。ただ、市民のアンケートの結果いかんにかかわらず、私たちの方向性はぶれないままに動いていきたいと思う。

委員・今のアンケートのお話を伺って、博物館の問題というのはやはり難しいなというのを正直感じる。なぜ難しいかと考えると、やはり遠いものなのだろう。

今日の議論に戻ることになるが、例えば豊科郷土博物館を中心にして、というお話があった。それで私が伺いたいのは、拡張といってもなかなか難しいのではないかと。いずれにしても、敷地面積が2,000平米ぐらいしかない。だから急に5階建て、6階建てというのは、たぶん基礎工事の関係でもできないだろうし、恐らく拡張は現実問題になると難しい面がある。

今、アンケートで皆さんが不安になるのは、やはり博物館は意識的に遠く感じてしまっているということ。収蔵が安曇野市の場合は非常に大きな問題だということだが、郷土博物館を思い切っただけで展示とか、それからいわゆるワークショップというか、研究室とか、そういったものに特化してしまっただけではどうか。

収蔵はどうするかということについて、市の給食センターを転用して成功したというお話もあった。もう一つ、教育委員会というか、市の教育部門のセクションのご担当もおいでなので伺いたいのだが、今、学校はどこも空き部屋がいっぱいある。だから例えば安曇野市が所有する小学校とか中学校の空き教室とか、そういうところを収蔵として使うというのはどうか。これは素人の考えで、とんでもない話なのか、あるいはいまいくらか可能性があるのか。

委員長・すみません、ちょっと論議が違うかと思う。ケース1に関しては、先ほどの話のとおりである。案としては豊科郷土博物館を活用し、安曇野市文書館へととなっている。今、私たちは一応、ケース1でやっている。

転用の仕方として、豊科郷土博物館を博物館としてそのまま使うという案は、ケース1にはない。これから先、ケース2について論議する場合には、先ほどのように全体的な流れの中で、市の行政の動きとも連動して考えることになっている。

委員・分かりました。それではもう一言だけ。見当外れなことを申し上げているというご指摘があればそのとおりだと思うが、今までに学校との連携という話が出ているが、具体的には何もなかったわけである。だから例えばAという小学校に安曇野市の郷土博物館からの預かり物の部屋があると。そこは展示場ではないからもちろん出入りはできない。しかし安曇野市の宝物を預かっているんだよということが言える。そうやって学校の中に収蔵場所を求めていけば、今ここで心配しているように、皆さんが博物館のことを知らないで大人になってしまうということが避けられるベースになるだろうと考える。

それから、Aという学校とBという学校と、二つにもし分散して預けられれば、火災などにも備えられる。今、学校の耐震化はかなりできているはずである。仮にAという学校が不幸なことに火事で燃えてしまっても、複数をAとBに分けておけば、Bのほうの資料は生き残る。分散というか。

委員長・今の話そのものが、もう特定の収蔵物しか考えていないと私は理解した。というのは、なぜ博物館にきちんとした収蔵庫を作らなければいけないかという、例えば重要な古文書であるとか、劣化をいかにして防ぐかという問題が常にある。今のように各学校に置けるとすると、民族文化財とか、個々の壊れないものとかで、これは学校側では管理が大変であるし、早い話が恐らくいい迷惑ではないかという気もする。

ですから今、私どもはケース1に関してはやはり理想論として何が必要で、ということを引きちんと論議しているつもりであり、この次にケース2の場合で論議するときに、そういう方向性も考えたい。

参考までにK委員、各学校に置いてくれといたら、どうします？

委員・困ります。

委員長・今言われたのは、私は恐らくどこでもそうだと思うし、管理がとても大変であり、一方で新市立博物館の中で学校との連携の問題は、大きな建物と、それから学芸員と、具体的な状況の中で次々に論議していくべきだと思う。

それからもう1点。博物館が遠いというのは、遠い博物館しかつくっていなかった。私が好きな博物館は、前に言ったかもしれないが、実は北海道の旭山動物園である。あれは博物館相当施設である。あれは日本中から人が集まる。今までのようなものから展示の仕方を変えるなど、人が集まる方策を引きちんと考えなければならない。私たちの頭の中が依然として古いままになっていて、古いものが並んでいるのが博物館ということになると、私はもう展示物ですので、そろそろあそこへ行って展示されるようになってしまう。そういうものではないところまでできている。私たちのこの委員会ではもっと夢のある、旭山動物園を越える展示をしてほしいというぐらいになっていくべきだと思う。

今たまたまおいでの委員のところの県立歴史館が県内の一番いい博物館だと私たちは思っているが、あれは博物館相当施設であって、博物館の現在としては、もう世の中は随分変わっている。それはやはりみんなが行きたくくなるような博物館をつくるために、われわれは新市立博物館を祈念していると理解している。

委員の言われたことは非常に重要だが、それはケース2論議していきたいと思う。

委員・今ここで議論していきたいということではない。私の所感で、感じたままを申し上げただけである。

委員長・どうもありがとうございました。

委員・このアンケートについて、今伺っていると、何となく市民の考え方を調査したい、というような意向でされるというふうに私には受け止めた。しかし、こういう委員会があって、しかも新しい市立博物館をつくりたいという意向がはっきりしてきている中で、そのことをしっかり提示せずにこういうアンケートをするというのはどうかなという思いが非常にある。提示して、素晴らしい博物館をつくりたいと、そういうことを前提とするなら、それに対する率直な意見が聞けるだろうと、そんなふうに考えた。

委員長・ありがとうございます。事務局のほうから、いかがでしょうか。

那須野課長・貴重な意見をありがとうございました。私もそのとおりだと思うが、いろいろな状況、情勢がそれを許さないというところがあり、やや直接的ではなくて間接的というか、ぼかした問いになってしまうところは、ちょっとやむを得ないのご理解いただければと思う。

委員長・ただ、先ほどのとおり、今日の意見により並べ替えをしたりして、少しでも私たちの意図が伝わるようにもっていきたい。とりわけ鏡の文、最初の文章等で少し調整しながらもっていきたいと思う。市は市の動きがあり、私たちは私たちの動きがあると思っている。これは一応、市がやる

ということだが、市がやることを私たちがうまく道具に変えて、最後はこれを私たちの武器としてもっていきたいと思う。また改めて、新しいアンケートについてご連絡を差し上げるので、それを見ていただいて、もう一度ご意見を寄せていただけたらと思う。

委員・資料3のケース1のところ、5番の「育成・創造」というところの、市民協働というところの特記事項に、「市民の文化活動を受け入れる体制づくりが求められる」と書いてある。やはり本当に将来的に豊かな地域をつくり、本当に一人一人が心豊かに生きていける、そのためにはどうしても文化活動が盛んになっていかなければいけないと思う。その視点から考えると、質問7と質問13は、ほかにも考えられるが、こういう項目以外にもっともっとユニークな、いろいろな構想を描かれる方もいらっしゃるのではないかと思うので、そういうことを記入できるようなスペースがあるといいかと思う。

委員長・ありがとうございます。今言っていたことは大変素晴らしいことである。これは最初に委員が言われたことにも全部つながってくると思われる。自由記述の部分を少し増やしていただき、恐らく私たちが気づかなかったようなことを少しでも言ってくれる人が出てくれば、それで大成功だというふうにもっていきたいと思う。「もしお気づきな点がありましたら」という自由記述欄を少し増やしていただくようお願いしたい。

ほかに何かあれば、よろしいでしょうか。

(6) その他

那須野課長・一つお願いがある。実は今日、ケース1はいろいろな意見をいただいたが、今回はケース2を中心に、いろいろな要素が詰まった話し合いをしていただきたいと思う。今日皆さんに資料を見てきていただいて、ケース2に対するいろいろなご意見をたぶんお持ちだと思うので、何でも結構なので、もし時間の許す限り、どこからでもいいのだが、ケース2はこういうふうと思うということを言っていたら、次回の検討材料にさせていただきたい。先ほども説明したが、ケース2のポイントというところにあるように、豊科郷土博物館しかないということで、これを増改築するという案にしている。それからスペースがないので、どこか空き施設に収納、研究スペースを設けるというのを大前提とした上で、例えば統廃合の対象として3館を挙げている。この条件が整わないと、例えば臼井吉見記念館とか、飯沼飛行士記念館とかを市に寄贈するというときに、やはり違うとか、そんなはずではなかったとかいう地域の方が当然いると思うので、そういう方々たちを説得するためにもそういう条件は不可欠だと思って大前提としたわけなのだが、それ以外にもケース2の場合は多様な対応が考えられるので、この場で私はこう思うというのを述べる時間を取っていただけるとありがたい。

委員長・今の時間帯でよいか。

那須野課長・ええ。

委員長・今の時間帯でよいそうなので、どうぞ、ご意見がありましたら。

委員・実際に博物館を運営している立場からすると、収納場所と展示場所が離れているというのはとてもない。仕事ができない。どういうことかという、要するに放っておけばいいようなものをどこか別に隔離して、遊休施設に置くというのはいいと思うが、日常的に管理しなくてはいいようなものを、展示場所や活用場所と離れた所に収納することは二度手間、三度手間である。また、そこから運んでくる時の手間や保存環境、そういうことを考えると、基幹資料については展示施設や研究施設、研究部分と一体的であるべきである。たとえケース2であってもそうであるべきだというのが私の意見である。

委員長・大変重要なご指摘であった。ほかに皆さん、ご意見をどんどん言っていただいて結構なので、言いつばなしで結構なので。

委員・ケース2の場合にはいろいろな分野に、新設ほどは充実しきれないと、いろいろななかたちで書いてある。私の経験からいうと、今の穂高会館はかなり費用をかけて改修したということだが、全くバリアフリーがなく、車いすの方たちは利用できないという現実がある。

そういう視点から考えると、いくらケース2であっても何億というお金をかけると思う。ですから、将来的な見通しを持ちながら、新設ほどはできないという項目があるので、もっと慎重に考えたほうがいいかと思う。

委員・私はどうしてもお金のことが気になる。今言ったように、バリアフリーにしたら幾らかかるとか、耐震構造が幾らかかるとか、そういった具体的な数字をぜひ出していただきたいと思う。

委員・それぞれの施設を改築していくと、総額がどのくらいになるのか。耐震はすごく費用かかるということは穂高会館でよく分かっている。それだけかけるなら、もしかしたら新しく建てたほうが将来的にいいのかなど。要するに、今、豊科郷土博物館に関していえば、耐震ではない。それを耐震化してなおかつ新しいというか、付属で大きくしてどうなるのかなというか、天秤にかけるような話になってしまうが。それで豊科郷土博物館だけでは駄目なら、たぶんほかのところも多少直していく。そうなるのとどれだけ費用がかかるのかということが気になる。

委員長・できれば、その資料を出してほしい。というのは先ほど、最初にも言ったとおり、耐震化しても今の建物はコンクリート製なので耐久年数が限られている。恐らく耐震化して30年たったら、もう建て直しをしなければいけない。かた的には30年かけて次の博物館をやるためのステップと考えるのか、むしろ全体予算がこのくらいかかるからこちらのほうがいいですよと、もしわれわれの意見として言えるなら、それはすごくいいことだと思うので。

ほかの方もぜひご意見をお願いいたします。言いっぱなしでもいいので。これはこの次へのステップなので、これはおかしいぞとか、私はこう思うというのがもしあれば、お願いいたします。

委員・豊科郷土博物館は、空調が全く駄目である。暑い日に展示を見たが、耐えられなかった。空調設備を整えないと、収蔵施設だけ整えても駄目だと思うので、そこはよく考えてもらいたい。

それから、場所が離れた所から収蔵物を運搬するのであれば、搬入口などもしっかりしたものになれば、トラックの出入りや運搬で貴重なものを壊してしまったりするので、改築の中に入れてもらいたい。

委員長・確かライトも非常に古いパターンのライトで、今回の展示でもライティングにすごく苦労しているという実態がある。ある程度のものにするにはどのくらい費用がかかるのか。今まで話が出てきている空調の問題などでどのくらいお金がかかるという情報は、ぜひわれわれも欲しいし、それが見えてこないと論議がしづらいので、できればそのあたりの情報をお願いした。ほかにご意見はありませんでしょうか。

那須野課長・実は耐震を満たしていない建物はそれほどない。ご指摘の豊科郷土博物館、それから穂高資料館、堀金民俗資料館、一応この三つ以外はたぶん耐震を満たしているということになっている。統廃合自体はそこも含めて、一応、ケース2は考えてあり、これでいくと豊科郷土博物館だけを耐震・改修をすればよいだろうという前提がある。ただ、ご存じのとおり豊科郷土博物館は、皆さんのおっしゃるとおりのことが既に現実になっており、幾つもの逸話が出ている。例えば車いすで来た方が階段を見て、そのまま帰られたとか、お年寄りの集団、高齢者の集団が来て、「私は、ここはとて2階までは行けない」といって帰られたとか、去年の「安曇野のエジソンたち」展では、空調が無くて、暑さのあまりに精密機械が止まってしまったとか、挙げればきりが無いほどである。そういう施設上の問題があり、これらはお客さまにせっかく来ていただきながら施設の問題で帰られてしまうということは、われわれにとっても屈辱的な部分がありまして、この構想を根拠に、仮にケース2になった場合でも、直すべきところはきちんと直していきたい。

今日挙げられなかった部分も含めて、次回にケース2を検討する。施設的には、委員がおっしゃるように、なかなか一つの場所に確保することは厳しいかもしれないが、無いなら無いなりに、できるだけことはケース2に盛り込みたいと思うので、その時点でご意見をまた持ってきていただければありがたいと思う。

委員長・私が市民だとしたら、いい展示会はぜひ見たいと思う。けれども、いい展示会を連れてくるのにも空間が恐らく全く無い。日本的ないい展示会を見たいと思ったらここでやったらいい、などいうことを含めて考えると、せっかくの安曇野市の博物館なので、最初に触れたとおり、私どもと

しては、理想はケース1である。ケース1ができないのであれば、取引みたいになるが、ケース2のこの部分は最低条件としてやってもらえないと後に引けないと。私たちがやりたくて本委員会をつくったわけではなくて、構想委員会は市のほうから頼まれたもので、われわれもその気になったのだからと、最後はいろいろと取引はしていくつもりでいる。

10分ほど延びたが、おかげさまでいつものとおり大変実りのある、それから心が一つになりつつあって、博物館の次を考えるようになってきていると私は思っている。いつものとおり、司会のほうは適当なので、少し延びたが、これで事務局のほうにお返しする。

4. その他

那須野課長・いろいろとどうもありがとうございました。それでは事務局から、次回の予定についてお願いしたいと思う。皆さま既にご存じのように、この連休明けには安曇野市の新本庁舎がオープンする。したがって、次回の第6回委員会は新本庁舎で開かせていただきたいと思う。誠に勝手に申し訳ないが、私どもの都合で5月28日木曜日、午後1時半から新本庁舎3階の共用会議室302という所で行いたい。もちろん通知もまた差し上げる。どうぞよろしくお願いいたします。

6. 閉会

那須野課長・時間を超過してしまい申し訳ありませんでした。以上をもって、第5回安曇野市新市立博物館構想策定委員会を閉じさせていただく。ありがとうございました。

委員長・どうもありがとうございました。

以上